

意地のイメージ 高校生と大学生の比較

| | |
|----------|---|
| その他のタイトル | The images of iji: a comparative study of high-school and university students |
| 著者 | 永井 知子, 串崎 真志 |
| 雑誌名 | 文学部心理学論集 |
| 巻 | 1 |
| ページ | 19-26 |
| 発行年 | 2007-03-31 |
| URL | http://hdl.handle.net/10112/7934 |

意地のイメージ：高校生と大学生の比較

永井知子
串崎真志

I. 問題

「意地」を辞書で引いてみると、①気だて。心根。根性。②自分の考えを通そうと思うことを無理に押し通そうとする心。③物をむやみにほしがる気持ち。特に、食べ物に執着する心（大辞泉，1998）とある。このように、日常生活において意地は、否定的な意味で使われることが多い。たしかに、意地を張り続けることが、引くに引けないところまで自分を追い込むことはあろう。その結果、周囲からの孤立を余儀なくされ、しばしば「意地が悪い」と難詰されたりもする。しかし一方で、意地こそ自分を励まし、初志貫徹する原動力になっているとも考えられる。人はときに、「意地でも」頑張ろうとし、自らの信念を貫き通す。逆に「意気地なし」とは、そのような意志の弱さを指す言葉であらう。

筆者らは、意地のこのような二側面に注目し、実証研究に着手した（永井・串崎，2006a，2006b，2006c，2007a，2007b）。未だ基礎研究の段階であるが、たとえば永井・串崎（2006a）では、大学生を対象として「意地尺度」を作成し、消極的意地と能動的意地の二側面を含む、安定した3因子構造を見出すことに成功した。本研究では、同年に行った高校生サンプルの結果を報告したい。まず、①高校生の意地の構造を検討し、大学生のそれと比較する。次に、②「意地っぴりな人」に対する彼らのイメージを調査し、大学生との比較を試みる。いずれも基礎資料の域を出ないが、若干の考察を加え、意

地の発達研究に向けての礎としたい。

II. 方法

1. 手続き

大阪府内の高等学校2年生に調査用紙を配布、記入もれがある者を除外した171名（男性110名、女性61名）を分析対象とした。大学生サンプルは、記入もれがある者と年齢が25歳以上の者を除外した281名（男性88名、女性193名）を分析対象とした（永井・串崎，2006aと同一サンプル）。調査時期は、いずれも2005年11月で、授業時間を利用して集団で実施し、その場で回収した。

2. 質問紙の構成

本研究の分析に用いる質問項目として、次の2種類を含めた。

(a)意地尺度（短縮版）（永井・串崎，2006a）15項目。

(b)「意地っぴりな人」のイメージを評定するための形容詞16項目。事前に実施していた自由記述を参考に作成した。

(a)(b)ともに、各項目の回答は、「1 = ぜんぜんそう思わない」から「6 = まったくそう思う」の6件法であった。

III. 意地尺度（短縮版）の結果

1. 因子分析

「ぜんぜんそう思わない」から「まったくそ

う思う」をそれぞれ1～6点として得点化した。15項目について、因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った結果、3因子が得られた（表1）。項目の内容からそれぞれ、第Ⅰ因子は「意志の強さ」、第Ⅱ因子は「素直になれなさ」、第Ⅲ因子は「頑固」として解釈された。これは、大学生版（永井・串崎, 2006a）の結果と同一であった。

2. 平均値と標準偏差

意地尺度得点の平均値、標準偏差、標準誤差、尖度、歪度を表2に示した。また、性差を検討するため、一要因の分散分析を行った。その結果、いずれの尺度についても有意差はみられなかった。

3. 下位尺度

因子分析で得られた3因子から、下位尺度を構成した（表2）。それぞれの平均値と標準偏差は、「素直になれなさ」（平均16.94、SD4.98）、「意志の強さ」（平均19.29、SD4.78）、「頑固」（平均16.01、SD4.63）であった。内的整合性を検討するために、Cronbachの α 係数を求めた。尺度総得点において $\alpha = .74$ 、「素直になれなさ」で $\alpha = .67$ 、「意志の強さ」で $\alpha = .69$ 、「頑固」で $\alpha = .64$ と、やや低い結果となった。

4. 高校生と大学生の比較

学年（大学生・高校生）と性別（男性・女性）によって、「素直になれなさ」「意志の強さ」「頑固」の各下位尺度の平均値に差があるかどうかを検討するため、二要因の分散分析を行った（表3）。その結果、「意志の強さ」について有意な交互作用がみられた（ $F(1, 488) = 9.97, p < .01$ ）。交互作用が有意であったことから、単純主効果の検定を行った。その結果、男性において、学年の単純主効果（ $F(1, 448) = 24.23, p < .001$ ）、大学生において、性別の単純

主効果が有意であった。すなわち、男性においては、学年があがるにつれて「意志の強さ」が上昇するのに対して、女性においてはそのような変化はみられなかった。

5. 確認的因子分析とパス解析

因子分析で得られた意地の3因子構造を確認するため、Amosを用いて確認的因子分析を行った。最初に、3つの因子がそれぞれ該当する項目に影響を与え、すべての因子間に共分散を仮定したモデルを分析した。適合度指標は、 $\chi^2 = 220.775, df = 87, p = .000, GFI = .852, AGFI = .796, CFI = .726, RMSEA = .095, AIC = 286.775$ であった。次に、検定統計量や修正指数にしたがって、「素直になれなさ」を独立させ、項目間や誤差項間にもパスを加えた。こうして分析を重ねた結果、最終的に、 $\chi^2 = 97.504, df = 81, p = .102, GFI = .935, AGFI = .903, CFI = .966, RMSEA = .035, AIC = 175.504$ という、モデルが得られた。図1に、有意なパスとその標準化推定値を示した。結果は、大学生サンプル（永井・串崎, 2006a）で見出されたモデルとはやや異なっていた。

IV. 「意地っ張りな人」のイメージ

1. 因子分析

「ぜんぜんそう思わない」から「まったくそう思う」をそれぞれ1～6点として得点化した。16項目について、因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った結果、高校生、大学生ともに3因子が得られた。（表4a, 4b）。高校生と大学生では、因子を構成する項目に違いがみられたが、内容に大差ないと判断し、同一の因子名とした。項目の内容からそれぞれ、第Ⅰ因子は「陽気」因子、第Ⅱ因子は「冷淡」因子、第Ⅲ因子は「穏便」因子として解釈された。高校生の第Ⅰ因子に「優しい」を加えたものが、

大学生の第Ⅰ因子となっており、高校生の第Ⅲ因子から「優しい」を除き、「暗い」を加えたものが、大学生の第Ⅲ因子になっていた。大学生の「不安定な」の項目は、すべての因子に低い負荷量を示していた。

2. 平均値と標準偏差

各形容詞の平均値、標準偏差、標準誤差、尖度、歪度を表5に示した。また、性差を検討するために、一要因の分散分析を行った。その結果、「怖い」という項目のみ、女性が男性に比べて有意に高かった ($F(1, 450) = 5.21, p < .05$)。

3. 高校生と大学生の比較

高校生と大学生で、平均値に差があるかどうかを検討するため、一要因の分散分析を行った(表6)。その結果、以下の9項目で有意差がみられた。「明るい」($F(1, 450) = 4.95, p < .05$)、「積極的な」($F(1, 450) = 5.38, p < .05$)、「にぎやかな」($F(1, 450) = 7.17, p < .01$)、「保守的な」($F(1, 450) = 7.30, p < .01$)、「不安定な」($F(1, 450) = 9.91, p < .01$)、「冷たい」($F(1, 450) = 5.14, p < .05$)、「怖い」($F(1, 450) = 10.21, p < .01$)、「静かな」($F(1, 450) = 9.12, p < .01$)、「つきあにくい」($F(1, 450) = 4.70, p < .05$)。「明るい」「にぎやかな」「不安定な」の3項目は、高校生が大学生よりも有意に高く、「積極的な」「保守的な」「冷たい」「怖い」「静かな」「つきあにくい」の6項目は、大学生が高校生に比べて有意に高かった。

V. 考察

1. 高校生の意地の構造

確認的因子分析では、大学生サンプル(永井・串崎, 2006a)で見出されたような、「素直になれなさ」→「頑固」→「意志の強さ」というパスは、確認できなかった(図1)。パス図

を見ると、高校生の意地は、大きく「消極的意地」(「素直になれなさ」と「能動的意地」(「意志の強さ」「頑固」)に二分されている。おそらく、意地としての「意志の強さ」が明確に分離し、3因子間で影響関係が生じるのは、大学生以降と推測される。このことは、(男性サンプルにおいて)「意志の強さ」が大学生で上昇する(表3)ことと合致する。

図1の一部の項目において、「意志の強さ」から「素直になれなさ」、あるいは「頑固」から「素直になれなさ」へのパスが見出されたことは、高校生の意地を考えるうえで興味深い。思春期特有の自立への強い思いが、ときに頑なな自己主張となったり、引くに引けない「素直になれなさ」として表れるのではないか。

2. 思春期と意地

思春期は、子どもから大人への過渡期といわれる。身体的には大人であっても、心理的には未成熟さを残している。成長と成熟のアンバランス、あるいはそこから生じる不安定さが、しばしば指摘されてきた(伊藤, 2006; 柴崎, 2004)。思春期はまた、「自我の目覚め」ともいわれる。いわゆる自意識が高まり、自分自身を客観的に眺め、「自分は何者なのか」という実存的な問いが生まれる(伊藤, 2006)。柴橋(2004)が述べるように、そこには親からの自立という課題がある。彼らの俳句には、そのような心境がよく表れていると思う(龍谷大学, 2006)。

親という浮き輪をはずして泳ぎたい(高校1年)
現実には裏まで見えない水中花(高校2年)
満月よ僕は確かにここにいる(高校3年)

親に甘えている自分と、そこから抜け出して自由に生きたい自分。実存的な問いを持ちつつ、他人の心に敏感になり、将来に対する漠然とし

た不安をもつ。ときには、今ここに立っている自分を確かめるべく、自分と向きあおうとする。このような思春期の心性が、能動的意地を生じさせるのではないか。

3. 意地の発達

発達的に見れば、意地の始まりは「素直になれなさ」一因子であったと考えられる。思春期に入ると、そこに「能動的な意地」が芽生え始める。ただし高校生のそれは、「素直になれなさ」との間を往還する不安定なものだ(図1)。能動的意地といっても、彼らの表現は未熟で、ときに周囲の抵抗にさえあうだろう。しかしそれでも、「頑固」に自己内対話を続けることで、「意志の強さ」という自分の基軸を得る。こうして大学生にもなれば、意地の多様な機能を活かすことが可能となる。このことは、「意地っ張りな人」に対するイメージからも伺えるだろう。大学生の意地のイメージは、高校生に比べて、意地の多様な側面を捉えているといえる(表6)。

文献

伊藤美奈子編(2006)『朝倉心理学講座16思春期・青年期臨床心理学』朝倉書店。
松村明編(1998)『大辞泉』小学館。

永井知子・串崎真志(2006a)「意地尺度(短縮版)の作成」『平成17年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書』(関西大学大学院社会学研究科), pp.177-187.

永井知子・串崎真志(2006b)「クラスター分析で見た意地の4類型:自由記述の比較」『千里山文学論集』(関西大学大学院文学研究科院生協議会), 75, 91-100.

永井知子・串崎真志(2006c)「恋愛場面における意地の表現」日本人間性心理学会第25回大会(愛知学院大学)個人研究発表.

永井知子・串崎真志(2007a)「大学生における意地の構造:尺度構成の試み」『平成18年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書』.

永井知子・串崎真志(2007b)「大学生における意地表現の特徴:意地表現尺度の作成」『千里山文学論集』(関西大学大学院文学研究科院生協議会).

龍谷大学編(2006)『青春俳句大賞』東方出版(p.142, p.126, p.133).

柴橋祐子(2004)『青年期の自己表明に関する研究:中学・高校生の友人関係を対象として』風間書房.

表1 意地尺度（短縮版）の因子分析（主因子法、Promax回転）

| | I | II | III | |
|--|------------|------------|------------|------|
| 3.人が何と言おうと、自分のやるべきことをまっとうしたい. | .75 | -.12 | .09 | |
| 4.納得できるまで、ねばり強く取り組むくむほうだ | .60 | .08 | -.05 | |
| 9.まわりに流されるのは、ごめんだ | .53 | .01 | .09 | |
| 10.人の評価や、損得勘定を抜きにして、自分の信念を貫きたい | .47 | -.11 | .19 | |
| 6.安易な妥協はしたくないほうである | .43 | .15 | -.12 | |
| 8.人から優しくされると、戸惑いを感じてしまう | -.18 | .57 | .26 | |
| 7.人の自分に対する気持ちを、信じられないことがある | -.05 | .56 | .12 | |
| 5.心の中に、いつも素直に甘えられない自分がある | .44 | .56 | -.23 | |
| 2.人のやさしさを素直に受け入れることができない | -.09 | .56 | .19 | |
| 12.寂しいときに、素直に寂しいと言えないことがある | .13 | .42 | -.11 | |
| 1.自分がこうしたいと思ったら、わがままを言って、相手を困らせてしまうことがある | .11 | .03 | .58 | |
| 15.気をつかっているつもりが、頑固だと言われることがある | -.05 | .12 | .49 | |
| 14.相手が自分の思い通りにならないとき、嫌な態度をとってしまう | .03 | .11 | .49 | |
| 13.人からはしばしば、頑固だと言われる | .10 | .04 | .41 | |
| 11.自分の考えを通そうとするとところがある | .45 | -.11 | .36 | |
| | 因子間相関 | I | II | III |
| | I | - | 0.13 | 0.25 |
| | II | 0.13 | - | 0.1 |
| | III | 0.25 | 0.1 | - |

表2 意地尺度（短縮版）の平均値と標準偏差

| 尺度 | 全体 (N=171) | | | | 男性 | 女性 |
|------------------------------------|----------------|------|------|------|----------------|---------------|
| | 平均値 | 標準誤差 | 歪度 | 尖度 | (N=110) | (N=61) |
| 素直になれなさ (5項目; $\alpha = .672$) | 16.94 4.98 | .38 | .22 | -.06 | 17.04 4.85 | 16.75 5.25 |
| 意志の強さ (5項目; $\alpha = .691$) | 19.29 4.78 | .37 | -.32 | -.15 | 19.10 5.15 | 19.64 4.05 |
| 頑固 (5項目; $\alpha = .643$) | 16.01 4.63 | .35 | .35 | .17 | 16.17 4.83 | 15.70 4.28 |
| 尺度総得点 (15項目; $\alpha = .738$) | 52.23 10.17 | .78 | .23 | .88 | 52.31 10.85 | 52.10 8.89 |

注1. 下段の数値は標準偏差を示す

表3 学年と性別による各得点と分散分析

| 尺度 | 高校生 | | 大学生 | | 分散分析 |
|------------------------------------|----------------|---------------|----------------|---------------|-----------|
| | 男性 (N=110) | 女性 (N=61) | 男性 (N=88) | 女性 (N=193) | |
| 素直になれなさ (5項目; $\alpha = .672$) | 17.04 4.85 | 16.75 5.25 | 17.38 5.53 | 17.26 4.88 | 大>高,男>女** |
| 意志の強さ (5項目; $\alpha = .691$) | 19.10 5.15 | 19.64 4.05 | 22.28 4.58 | 19.90 4.25 | |
| 頑固 (5項目; $\alpha = .643$) | 16.17 4.83 | 15.70 4.28 | 16.25 4.09 | 16.82 4.91 | |
| 尺度総得点 (15項目; $\alpha = .738$) | 52.31 10.85 | 52.10 8.89 | 55.91 10.72 | 53.98 9.95 | |

上段：平均値、下段：標準偏差

** $p < .01$

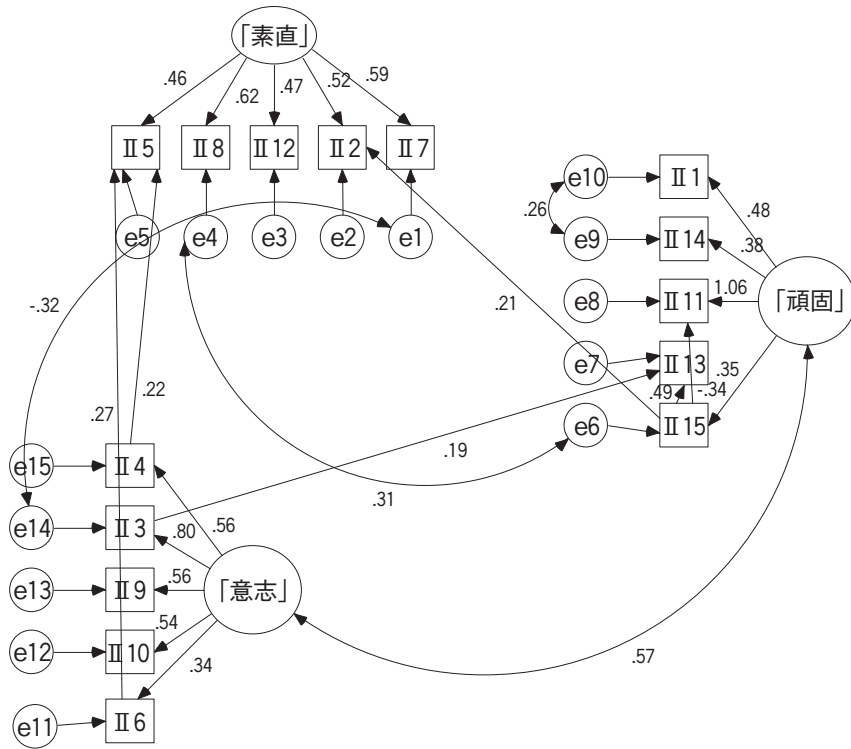


図1 高校生の意地尺度（短縮版）の確認的因子分析

表 4a 高校生イメージ因子分析
(主因子法, Promax回転)

| | I | II | III |
|---------|------|------|------|
| にぎやかな | .81 | .08 | -.19 |
| 明るい | .81 | .13 | -.18 |
| 積極的な | .74 | .30 | -.14 |
| 楽しい | .69 | -.13 | .18 |
| 大胆な | .66 | .22 | -.10 |
| 親しみやすい | .53 | -.27 | .18 |
| 冷たい | .26 | .82 | .14 |
| 怖い | .13 | .70 | .21 |
| つきあいにくい | -.21 | .61 | -.09 |
| 不安定な | .19 | .54 | .06 |
| 暗い | -.12 | .52 | .51 |
| 静かな | -.23 | .21 | .76 |
| 優しい | .38 | -.23 | .51 |
| 繊細な | -.03 | .15 | .43 |
| 落ち着いた | .00 | -.24 | .43 |
| 保守的な | -.19 | .19 | .33 |
| 因子間相関 | | | |
| I | - | -.33 | .19 |
| II | | - | -.20 |
| III | | | - |

表 4b 大学生イメージ因子分析
(主因子法, Promax回転)

| | I | II | III |
|---------|------|------|------|
| 明るい | .75 | -.07 | -.06 |
| 楽しい | .75 | -.12 | .06 |
| にぎやかな | .70 | -.05 | -.18 |
| 親しみやすい | .61 | -.34 | .14 |
| 積極的な | .61 | .38 | -.22 |
| 大胆な | .55 | .42 | -.12 |
| 優しい | .48 | -.20 | .44 |
| 不安定な | .19 | .08 | .08 |
| 冷たい | .13 | .77 | .20 |
| 怖い | .05 | .70 | .06 |
| つきあいにくい | -.17 | .62 | .08 |
| 静かな | -.01 | .27 | .73 |
| 暗い | -.15 | .19 | .55 |
| 繊細な | .01 | -.11 | .51 |
| 落ち着いた | .18 | .07 | .49 |
| 保守的な | -.20 | .02 | .43 |
| 因子間相関 | | | |
| I | - | -.32 | -.01 |
| II | | - | -.19 |
| III | | | - |

表5 イメージの平均値と標準偏差

| | 全体 (N=171) | | | | 男性 | 女性 | 分散分析 |
|---------|--------------|------|------|-------|--------------|--------------|------|
| | 平均値 | 標準誤差 | 歪度 | 尖度 | (N=110) | (N=61) | |
| 明るい | 2.96 1.36 | .06 | .22 | -.88 | 3.31 1.38 | 2.85 1.46 | |
| 大胆な | 3.97 1.44 | .07 | -.47 | -.78 | 3.95 1.54 | 3.54 1.61 | |
| 積極的な | 3.98 1.45 | .07 | -.50 | -.71 | 3.94 1.50 | 3.49 1.51 | |
| 落ち着いた | 2.30 1.28 | .06 | 1.08 | .69 | 2.24 1.34 | 2.03 1.08 | |
| 優しい | 2.35 1.14 | .05 | .67 | -.08 | 2.38 1.22 | 2.36 1.05 | |
| 楽しい | 2.70 1.25 | .06 | .41 | -.50 | 2.67 1.36 | 2.92 1.19 | |
| にぎやかな | 3.21 1.42 | .07 | .07 | -.93 | 3.42 1.49 | 3.46 1.35 | |
| 親しみやすい | 2.34 1.18 | .06 | .76 | .26 | 2.44 1.29 | 2.39 1.07 | |
| 暗い | 2.70 1.26 | .06 | .40 | -.60 | 2.65 1.33 | 2.51 1.23 | |
| 繊細な | 3.19 1.59 | .07 | .13 | -1.23 | 3.05 1.66 | 3.16 1.77 | |
| 保守的な | 3.88 1.57 | .07 | -.41 | -.96 | 3.58 1.69 | 3.72 1.78 | |
| 不安定な | 3.79 1.47 | .07 | -.28 | -.94 | 4.09 1.57 | 4.03 1.45 | |
| 冷たい | 3.42 1.39 | .07 | -.09 | -.85 | 3.22 1.45 | 3.26 1.43 | |
| 怖い | 3.54 1.43 | .07 | -.16 | -.85 | 3.08 1.40 | 3.61 1.56 | * |
| 静かな | 2.53 1.24 | .06 | .71 | -.05 | 2.28 1.22 | 2.34 1.14 | |
| つきあいにくい | 4.27 1.39 | .07 | -.57 | -.47 | 4.12 1.53 | 4.05 1.40 | |

* $p < .05$

表6 高校生と大学生の平均値と分散分析

| | 大学生 (N=281) | 高校生 (N=171) | 分散分析 |
|---------|----------------|----------------|------|
| 明るい | 2.85 | 3.15 | * |
| | 1.31 | 1.42 | |
| 大胆な | 4.06 | 3.81 | |
| | 1.35 | 1.57 | |
| 積極的な | 4.10 | 3.78 | * |
| | 1.40 | 1.51 | |
| 落ち着いた | 2.38 | 2.16 | |
| | 1.30 | 1.25 | |
| 優しい | 2.33 | 2.37 | |
| | 1.13 | 1.16 | |
| 楽しい | 2.66 | 2.76 | |
| | 1.22 | 1.30 | |
| にぎやかな | 3.07 | 3.43 | ** |
| | 1.39 | 1.44 | |
| 親しみやすい | 2.29 | 2.42 | |
| | 1.16 | 1.21 | |
| 暗い | 2.76 | 2.60 | |
| | 1.24 | 1.30 | |
| 繊細な | 3.25 | 3.09 | |
| | 1.52 | 1.70 | |
| 保守的な | 4.04 | 3.63 | ** |
| | 1.45 | 1.72 | |
| 不安定な | 3.63 | 4.07 | ** |
| | 1.41 | 1.52 | |
| 冷たい | 3.54 | 3.23 | * |
| | 1.34 | 1.44 | |
| 怖い | 3.71 | 3.27 | ** |
| | 1.38 | 1.48 | |
| 静かな | 2.67 | 2.30 | ** |
| | 1.26 | 1.19 | |
| つきあいにくい | 4.38 | 4.09 | * |
| | 1.32 | 1.48 | |

* $p < .05$ ** $p < .01$